

忘

六年 画数 7
筆順 亡 忘
オン ボウ
クン わすれる

成り立ち



「存在していた物が亡くなる」という意味の「亡」と、「心」とを組み合わせて作った字です。「心の中に存在していた物が亡くなる」という意味の字で、「わすれる」ことを表したものです。

「忘」と同じく「亡」と「心」との会意・形声字に、「忙(いそがしい)」がある。「忘」も「忙」も「心が正常に働かない」状態を表しているが、「忙」はその原因(忙しいという)を表しているのに対し、「忘」は、「忘れる」という、結果の方を表している。」

棒

六年 画数 12
筆順 杵 棒
オン ボウ
クン

成り立ち



「両手で物を捧げ持つ」形を表し、「棒」の本字である「奉」と、「木」とを組み合わせて作った字です。

貴人を警護するために、兵士が「捧げ持つ杖」を表した字です。この兵士を「儀杖兵」と言います。

今は、「手に持てる程度の木」のことを「棒」と言います。また、「棒状の物」を「棒」と言います。

使い方

▽電車に乗りますと、忘れ物をしないようにという注意がくり返し放送されるので不思議に思いましたら、電車の中の置き忘れが大変多いのだそうです。
▽お父さんは、今夜、会社の忘年会があるので、帰りが遅くなる、ということです。

熟語例

▽忘年会(年末に、一年間の苦労をおたがいにねぎらうため、いっしょに食事をして年を送る会。年忘れの会とも言います。「忘年」は、「年取ることを気にしない」という意味です。)
▽忘年の友(年齢のちがいを忘れて交際する友だちのこと。年にこだわらずに交わる友だち)
▽忘我(我を忘れること。「夢中になる」ことを言います。【例】読書を楽しんで忘我の境にあります。)
▽忘恩(受けた恩を忘れること。)
▽忘却(忘れ去ること。すっかり忘れてしまうこと。)
▽忘失(忘れて失うこと。「忘却」と同じ意味にも使います。)
▽健忘(物忘れがひどいこと。「健忘症」)

使い方

▽ぼくの妹は、お人形で遊ぶよりも、棒切れを持って男の子と遊ぶ方が好きのようです。
▽植木が台風のためにかたむいてしまいましたので、つかいかい棒をしてやりました。
▽わたしの本の読み方は、どうしても棒読みになってしまいます。先生のように読もうと努力しているのですが、どうもうまく行きません。

熟語例

▽つかいかい棒(物にあてがって、その物を助けささえる棒。「手助けする人」の意味にも使われます。)
▽棒読み(二本調子で、変化のない読み方)
▽棒立ち(棒のようにまっすぐ立つことです。驚いた時の表現に使います。【例】驚きのあまり棒立ちになったままで、声も出ない様子でした。)
▽警棒(警察官が腰につけている棒。)
▽相棒(昔、駕籠かきは二人一組で駕籠を担ぎました。棒を持って担ぐので、相手を「相棒」と言いました。)
▽先棒(駕籠をかつぐ時、先の方になる者のこと。人の手先になることを「お先棒をかつぐ」と言います。)